

非常持出し品・備蓄品

リュックサックなどに入れておき、避難しなければならないときに持ち出す「非常持出し品」と、避難後の生活を支える「非常備蓄品」の2段階で準備しておく必要があります。リストを参考に、個人や家庭に必要なものをしっかり準備しておきましょう。

① 非常持出し品チェックリスト

- | | | |
|--|--|--|
| 貴重品類
☐ 現金
☐ 預金通帳
☐ 印鑑
☐ 保険証
☐ 免許証

避難用具
☐ 懐中電灯
☐ 携帯ラジオ
☐ 予備電池
☐ ヘルメット・防災ずきん

非常食品
☐ 乾パン
☐ 缶詰
☐ 栄養補助食品
☐ アメ、チョコレート
☐ 飲料水 | 救急用具
☐ 救急セット
☐ 処方箋の控え
☐ 胃腸薬、便秘薬、持病の薬
☐ 生理用品
☐ 紙おむつ
(高齢者用、乳幼児用)
 | 生活用品
☐ 軍手(厚手の手袋)
☐ 毛布
☐ 缶切り
☐ ライター、マッチ、ろうそく
☐ ナイフ
☐ 携帯用トイレ
☐ 使い捨てカイロ
☐ ウェットティッシュ
☐ 筆記用具
☐ 携帯電話(充電器含む)

衣料品
☐ 下着、靴下
☐ 長袖、長スボン
☐ 防寒用ジャケット、雨具 |
|--|--|--|

② 非常備蓄品チェックリスト

避難した後、安全を確認して自宅へ戻り、自宅で避難生活を送ることや、避難所へ持ち出すことを想定し、最低3日分の生活に必要な備蓄品を備えておきましょう。

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| ☐ 飲料水 | 9リットル(3リットル×3日分) |
| ☐ ご飯(アルファ米) | 4～5食分※ |
| ☐ ビスケット | 1～2箱 |
| ☐ 板チョコ | 2～3枚 |
| ☐ 乾パン | 1～2缶 |
| ☐ 下着 | 2～3組 |
| ☐ 衣類 | スウェット上下、セーター、フリースなど |

※最低3日分は用意しておきましょう

※乳児がいる場合「液体ミルク等」

食料品・生活消耗品の備蓄には「ローリングストック法」が有効です。

ローリングストック法とは、定期的に(1か月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。食べながら備えるために消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱うことができます。消費期限を考えながら計画的に消費し、消費した分は新たに購入するようにしましょう。

わが家の防災メモ

いざという時の連絡先・安否情報の確認の手段などを、家族の間で確認しておきましょう。

わが家の避難場所		家族の集合場所		災害時の緊急連絡先	
家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号	



川上村

ハザードマップ

安全で安心なまちづくり





川上村防災ハザードマップ

自分たちの町は、自分たちで守る

兵庫県南部地震

1995年(平成7年)
1月17日午前5時46分

震度 7.3

マグニチュード 6.9

内閣府発表

米山 正孝 氏

村長あいまつ

村民の皆様には、平素より防災行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成の時代は阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめとする数多くの大震災が全国各地で起こり、加えて台風や豪雨災害による河川の氾濫、土砂崩れなどの自然災害が発生し甚大な被害をもたらしました。

また、令和元年は1959年(昭和34年)の伊勢湾台風から60年目を迎える年でした。決して忘れる事のできない大きな爪痕を残した伊勢湾台風の教訓を生かした災害に強い村とする防災・減災の取り組みをより一層進めてまいります。

自然災害をなくすことはできませんが、被害を最小限にとどめることはできます。

「都市にはない豊かな暮らしを築くこと」を基本に「自助・共助・公助」を軸として、新しく設置した「かわかみ放送」や「防災・行政サービス」を活用し、いち早く村民の皆様が必要とする情報を届けるのももちろんのこと、村民の皆様にも防災意識を高めていただき災害に備えるためのこの防災マップを活用し、ご家庭や地域の方々と話し合いの機会を増やし、災害への備えにお役立ていただけたら幸いです。



令和3年3月

川上村長 栗山忠昭

川上村ハザードマップ

目次

避難所・避難場所一覧	1	地震時の行動(時間別)	19
地域のハザードマップ	2	外出時の行動	20
避難行動ガイド	4	わが家の防災対策	21
情報発信について	6	水位情報と用語の説明	22
特別警報をご存じですか	8	浸水想定区域図とは	22
風水害対策	9	全体図	22
土砂災害ハザード情報について	10	詳細図	24
避難の心得	11	土砂災害警戒区域	
日頃の備え	12	想定最大規模	
自助・共助・公助	13	家屋倒壊等浸水想定区域	
揺れやすさマップ	14	浸水継続時間	
確率論的地震動予測マップ	16	非常持出し品・備蓄品	38
地震について	18	わが家の防災メモ	38

川上村ハザードマップ

令和3年3月発行

発行：川上村

◆お問い合わせ先：川上村役場 総務税務課

〒639-3594 奈良県吉野郡川上村大字迫1335番地の7

※掲載内容は発行後、掲載情報に変更がある場合もありますのでご了承ください。

【お断り】

本展中の地図は2011年9月発行の川上村宅地図アーカイブをもとに作成しております。作成は
 旭川市の歴史をさらに調べ作業を行っておりますが、日々変化する現状と地図面とが一致し
 ない場合があります。また、目標名などは見出しを優先し正統な名など一部勘定しております。
 ご了承くださいます。よろしくお願いいたします。申し上げます。

「この世図は、川上村長の通牒本備之川上村道路台帳」及び「川上村全図(1/25,000)」を基圖とし、

この地図は、川上村長官の承認を得て川上村道路日帳及び川上村全図(1725,000)を使用して
 編纂したものである。(平成30年7月18日 川総第243号)
 [測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 293-273号]

避難所・避難場所一覧

指定避難所

名 称	住 所	災害種別				指定緊急 避難場所 との重複	想定 収容人数
		洪水	津波等、大規模 火災等	地震	大規模な 火事		
東川公民館	大字東川785-1		○	○	○	○	80
川上小学校	大字西河105-1	○	○	○	○	○	270
西河公民館	大字西河570						100
大滝生活改善センター	大字大滝154						80
白屋公民館	大字大滝944						50
寺尾公民館	大字寺尾536-1						30
北塩谷公民館	大字北塩谷235-13						30
迫公民館	大字迫1334-39						50
川上総合センターやまぎホール	大字迫1374-2	○	○	○	○	○	130
宮の平公民館	大字迫1365-1						100
高原多目的集会所	大字高原461						80
川上中学校	大字人知270	○	○	○	○	○	230
人知公民館	大字人知43-21						40
井戸公民館	大字井戸212-2						30
武木公民館	大字武木593-1						50
井光公民館	大字井光98						50
下多古公民館	大字下多古847						50
白川渡公民館	大字白川渡149						70
初尾公民館	大字中奥191						60
中奥公民館	大字中奥948-1						50
瀬戸生活改善センター	大字白川渡269						70
川上村ふれあいセンター	大字北和田312		○	○	○	○	120
旧川上東小学校	大字北和田134	○	○	○	○	○	340
北和田公民館	大字北和田175						40
神之谷公民館	大字神之谷212						40
上多古集会所	大字上多古287-2						50
柏木生活改善センター	大字柏木126-5						70
上谷公民館	大字上谷140-2						30
大迫公民館	大字大迫57-1						30
伯母谷公民館	大字伯母谷11						30
入之波公民館	大字入之波292-14						110

指定緊急避難場所

名 称	住 所	災害種別				指定避難所 との重複	想定 収容人数
		洪水	直下型、大規模 地震	地震	大規模な 火災		
東川公民館	大字東川1785-1	○	○	○	○	0	80
川上小学校	大字西河105-1	○	○	○	○	0	270
川上総合センターやまぎきホール	大字追1374-2	○	○	○	○	0	130
川上中学校	大字人知270	○	○	○	○	0	230
川上村ふれあいセンター	大字北和田312	○	○	○	○	0	120
旧川上東小学校	大字北和田134	○	○	○	○	0	340

※災害種別ごとの避難所一覧です。状況に応じて各避難所への避難をお願いします。

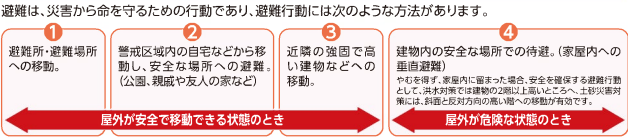
地域のハザードマップ

ここに地区のハザードマップを貼ってください。

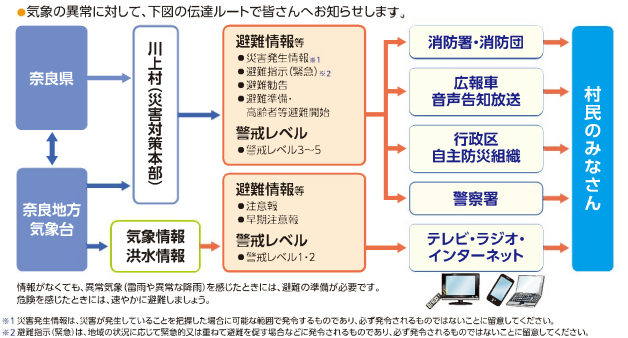
避難行動ガイド

村では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始」、「警戒レベル4避難勧告」、「警戒レベル4避難指示(緊急)」を発令し、皆さんに避難を促します。避難勧告などを発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します

避難とは…



災害避難情報



※1 災害発生情報は、災害が発生していることを把握した場合に可能な範囲で発令するものであり、必ず発令されるものではないことに留意してください。
※2 避難指示(緊急)は、地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合などに発令されるものであり、必ず発令されるものではないことに留意してください。

避難行動に関しての行政発令の種類と、住民のみなさんの対応

避難勧告などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難勧告」などを待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。

※「自主避難」とは…避難勧告などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない!」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(自主避難)をすることが命を守ることにあります。

避難の際には、ご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。

お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。

警戒レベル

【警戒レベル3】や【警戒レベル4】で地域の皆さんの声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

警戒レベル	避難情報等	避難行動等	防災気象情報
警戒レベル5	災害発生情報※1 (市町村が発令)	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	【警戒レベル相当情報(※1)】 警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 全員避難	避難勧告 避難指示(緊急)※2 (市町村が発令)	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 高齢者等避難	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発令)	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 など
警戒レベル2	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発令)	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	これは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。
警戒レベル1	早期注意報 (気象庁が発令)	災害への心構えを高めましょう。	

各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。
※1 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令
※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令

大雨のとき

河川の近くや、土砂災害の恐れがある区域に対して、村が設定している基準に達した場合に、警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始、警戒レベル4避難勧告、警戒レベル4避難指示(緊急)を発令します。また、従来までの想定以上に短時間で大雨が想定される場合、短時間で警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始が発令されずに警戒レベル4避難勧告、警戒レベル4避難指示(緊急)が発令される場合もあります。各自で早めの判断をおこない、「危ない!」と判断したら、ただちに危険な区域から離れる「自主避難」することが命を守ることにあります。

地震のとき

大きな地震に伴って、多くの家屋が崩壊し、その後の余震により家屋が倒壊するおそれがあるとき、又は火災が発生して大規模な延焼拡大のおそれがあるときに警戒レベル4避難勧告、警戒レベル4避難指示(緊急)を発令します。
◎直ちに避難所を開設するよう努めますが、発令がかかる場合があります。

火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに警戒レベル4避難勧告、警戒レベル4避難指示(緊急)を発令します。

その他

災害が発生するおそれがあるときに警戒レベル4避難勧告、警戒レベル4避難指示(緊急)を発令します。

情報発信について



「かわかみ放送」

光ケーブルを利用した防災行政情報放送「かわかみ放送」で情報をわかりやすく迅速にお知らせします。

かわかみ放送の便利なこんなコトあんなコト

光ケーブルを利用した有線放送なので、地形等の影響を受けずにクリアな放送をお届けできます

FMラジオ放送をお楽しみいただけます

区内放送として、指定の大字だけに区のお知らせを放送できます
※放送を行えるのは役員等特定の方に限ります

緊急放送は最大音量で放送を行います

村からのお知らせは最大5件まで端末に録音されるので、聞き逃しても後から確認できます

故障の際も村を熟知しているこまどりケーブルの方が迅速に対応してくれます

県から避難に関する情報(インターネット)

風水害は、最新の気象情報などを入手することで、時期や規模を予想することができます。テレビやラジオの報道に注意し、近所の人々と連絡を取りましょう。特に、インターネットやテレビのデータ放送は、自分の知りたい情報を得ることができるので積極的に情報を集めることができます。

奈良県ホームページ(防災・危機管理)

<http://www.pref.nara.jp/1825.htm>



気象庁ホームページ(気象庁ホーム)

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



奈良県ホームページ(砂防・災害対策課)

<http://www.pref.nara.jp/1681.htm>



気象庁ホームページ(防災情報奈良県)

https://www.jma.go.jp/bosai/?pattern=default&area_type=offices&area_code=290000



奈良県ホームページ(川の防災情報)

<http://www.pref.nara.jp/43968.htm>



NTT西日本(災害用伝言ダイヤル)

<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>



災害用伝言ダイヤル

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生をしてください。

録音する時は、**1**をダイヤル

→ 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

→ 録音する

再生する時は、**2**をダイヤル

→ 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

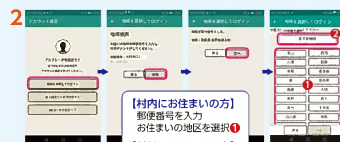
→ 再生する

川上村 防災・行政 ナビ

普段お使いのスマートフォンでアプリをダウンロードすることで、防災やイベント情報など村からのお知らせを、文字や音声、画像などでわかりやすくお知らせします。村外にお住まいの方にもおすすめです。

アプリをダウンロードするには

1 右のQRコードを読み取るか、AppStore、GooglePlayで「ライブビジョン」と検索し、ダウンロードして下さい。ホーム画面に右のアイコンが表示されるので、タップして起動してください。

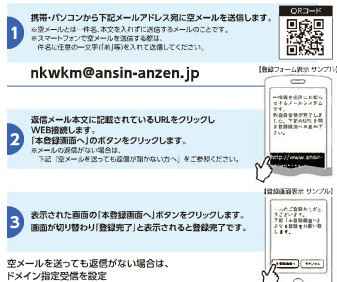


※ご利用のスマートフォンによっては一部ご利用できない機能がありますので、あらかじめご了承ください

Check 1のみフィーチャーフォン(ガラケー)に対応 川上村お知らせメール(Check1)の登録のしかた

利用者はメールを受信するための登録(空メール送信による登録)が必要となります。登録案内に従って空メールを送信し登録してください。

ライブビジョンのお知らせがメールにも配信されます



川上村ホームページ <http://www.vill.kawakami.nara.jp/>

特別警報を“存じ”ですか

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基 準
大 雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴 風	暴風が吹くと予想される場合
高 潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波 浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大規模災害が予想される緊急地震速報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基 準
地 震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報 (震度6弱以上) を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報 (噴火警戒レベル4以上) 及び噴火警報 (居住地域) を特別警報に位置づける)
津 波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

〒105-6431 東京都港区虎ノ門3-6-9
電話: 03-6758-3900 FAX: 03-3434-9086 (目の不自由な方向け)
気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp>
特別警報について <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報から
その次に迅速な対応



大雨注意報・ 警報の 発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。
・表面雨量指数基準 13
・土壌雨量指数基準 115

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。
・表面雨量指数基準 21
・土壌雨量指数基準 136

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量: mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出しやすい。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生しやすい。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速: m/s)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩かなくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台 風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大 き さ	風速 15m/s以上の半径	強 さ	最大風速
大型 (大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上	非常に強い 猛烈な	44m/s以上54m/s未満 54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることです。[ゲリラ豪雨]とも言われています。発生の予測は比較的困難で、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

●記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、地上の雨量計により観測したり、気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせて分析したりしたときに、各地の気象台が発表します。その基準は、1時間雨量が100mmと奈良地方気象台で決まっています。この情報は、大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するもので、大雨を観測した観測点や市町村等を明記しています。



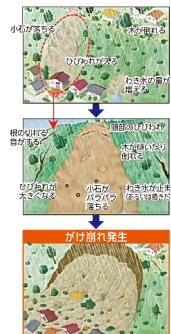
土砂災害ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況[土砂災害の前兆]に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きますため、人家の近くで起きますと逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは瞬間的に20〜40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを破壊させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌層が大きいので、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難勧告等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、

特に早めの避難が重要です。町からの避難に関する情報に留意するとともに、土砂災害警戒情報を自主避難の参考にしてください。土砂災害警戒情報が発表されたときは、町内で土砂災害発生危険度が高まっている領域を土砂災害警戒判定メッシュ情報(気象庁HP)でご確認ください。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、危険を感じたら躊躇することなく自主避難をお願いします。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

土砂災害防止法に基づき、奈良県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しを行っていく予定です。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)	建築物に被害が生じ、住民に甚しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)	土砂災害のおそれがある区域

※本県地図巻の「レッドゾーン」「イエローゾーン」に使用している色については地図面に掲載している凡例をご参照ください。



避難の心得

避難のポイント

正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなり、特異な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



要配慮者への協力

お年寄りや子供などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りや避難する場合に、協力しましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



万が一逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



非常持出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装での避難を

避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。



浸水時の水平避難と垂直避難

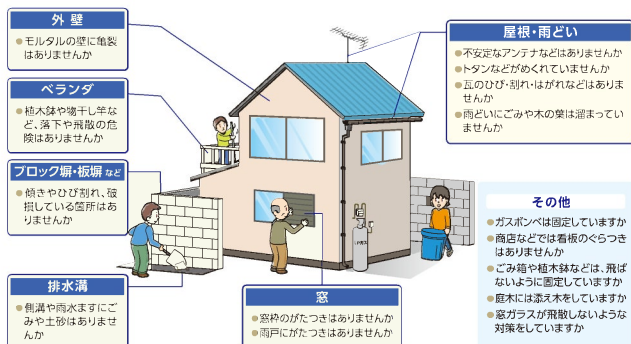
風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



日頃の備え

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



竜巻・落雷から身を守るために！

近年、竜巻や落雷といった災害が増加傾向です。発生する要因を知り、すみやかに避難できるようにしましょう。

“発達した積乱雲”に注意！
竜巻・落雷とも台風・寒気前線・低気圧などにより“発達した積乱雲”に伴って発生します。

兆候

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷の音が聞こえてくる
- 急に冷たい風が吹いてくる
- 大粒の雨やひょうが降りだす

竜巻

日本では、平均して年に23程度（2007～2017年、海上竜巻を除く）の発生が確認されています。一度発生すると家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより短時間で大きな人的・物的被害をもたらすことがあります。

避難のポイント

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 飛散物から身を守るような物陰に身を隠し、頭を抱えてうずくまる。
- 窓や扉、部屋の隅や外壁から離れ、頑丈な机の下に入り、両手で頭と目を守る。

落雷

雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちます。また周囲より高いものほど落ちやすいという特徴があります。



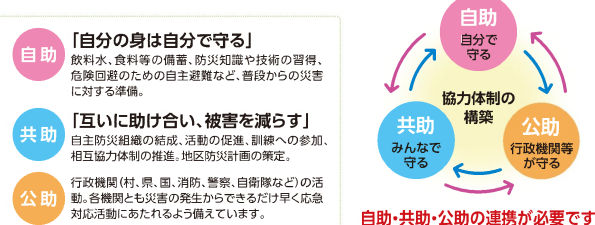
避難のポイント

- 雷鳴が聞こえたら、すぐに建物の中や自動車の中に避難する。
- 避難する建物がない場合は、電柱や木から4m以上離れて、身を低くする。

自助・共助・公助

自助・共助・公助とは

災害に対する予防・応急対応、復旧・復興には、村民の皆様と行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策に当たることが大切です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効果的な組み合わせが重要です。



「地区の計画」を作りましょう！ ～「自助」「共助」による地域の防災～



「地域の課題は地域で解決する」これは防災に限ったことではありませんが、特に地域の力が試されるのが災害時です。まず地域に水害・土砂災害などのようなリスクがあるのか、地域の中で共有し、家族や地域の人たちの命や財産をどのように守るのか、地域の中でしっかり考え、対応策を作っておくことが大切です。地域の中で議論することが、いざという時に地域の中で助け合う第一歩になるのです。計画作りを通じて地域が災害に備えて力を発揮できることが最も大切です。

自主防災組織の協力

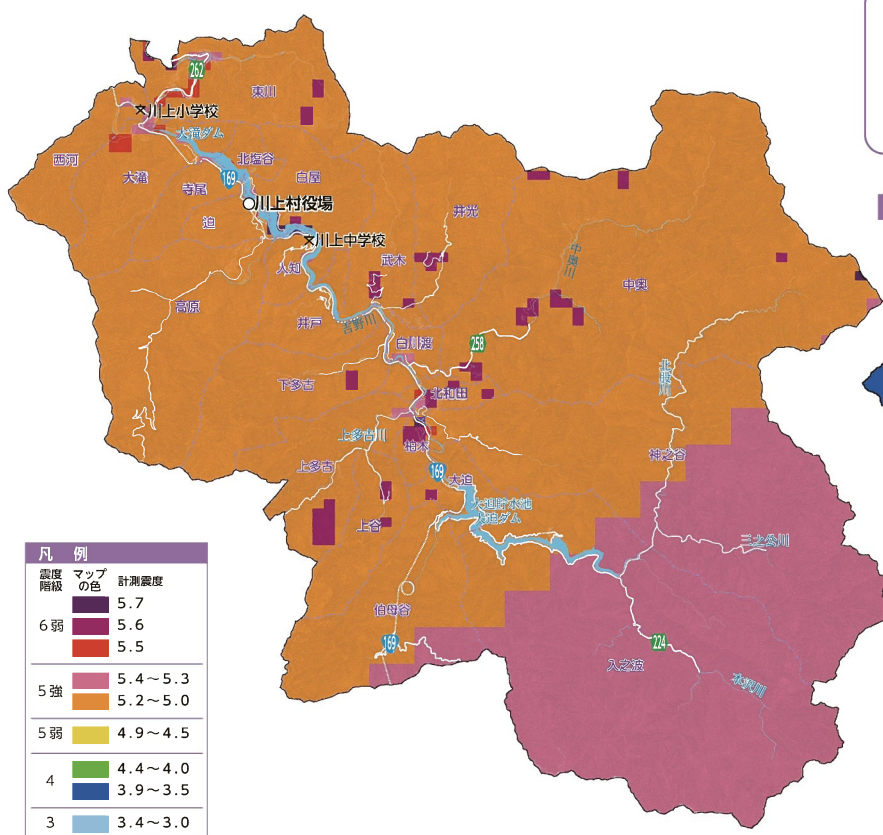
- **自主防災組織とは**
地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。
- **平常時の活動**
 - ① 防災知識の普及啓発
 - ② 防災訓練や地域の防災安全点検の実施
 - ③ 防災資機材の備蓄
- **災害時の活動**
 - ① 地域住民への避難の呼びかけ・誘導
 - ② 負傷者の救出・救護
 - ③ 初期消火活動
 - ④ 避難所の運営



特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

あなたとあなたの村を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち川上村」を作りあげましょう。

揺れやすさマップ



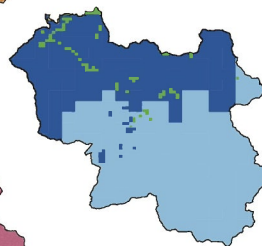
揺れやすさマップは、川上村への影響が大きいと想定される「活断層地震」および「海溝型地震」の予測震度を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる恐れのある最大の揺れを表したものです。

したがって、実際に地震が発生した場合には、予測されたとおりの震度の揺れが生じるとは限りませんが、最大の揺れに対する日頃からの備えを心がけましょう。

想定地震別の震度分布図

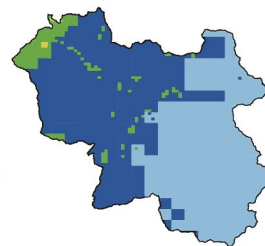
●奈良盆地東縁断層帯

南東側のアスペリティ（断層面上の主要な破壊領域）から破壊が開始する場合



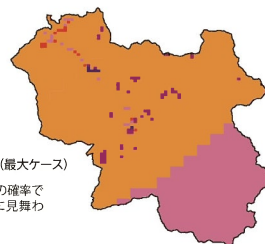
●中央構造線断層帯（五条谷）

北西側のアスペリティ（断層面上の主要な破壊領域）から破壊が開始する場合
巨視的震源パラメータ：高角度



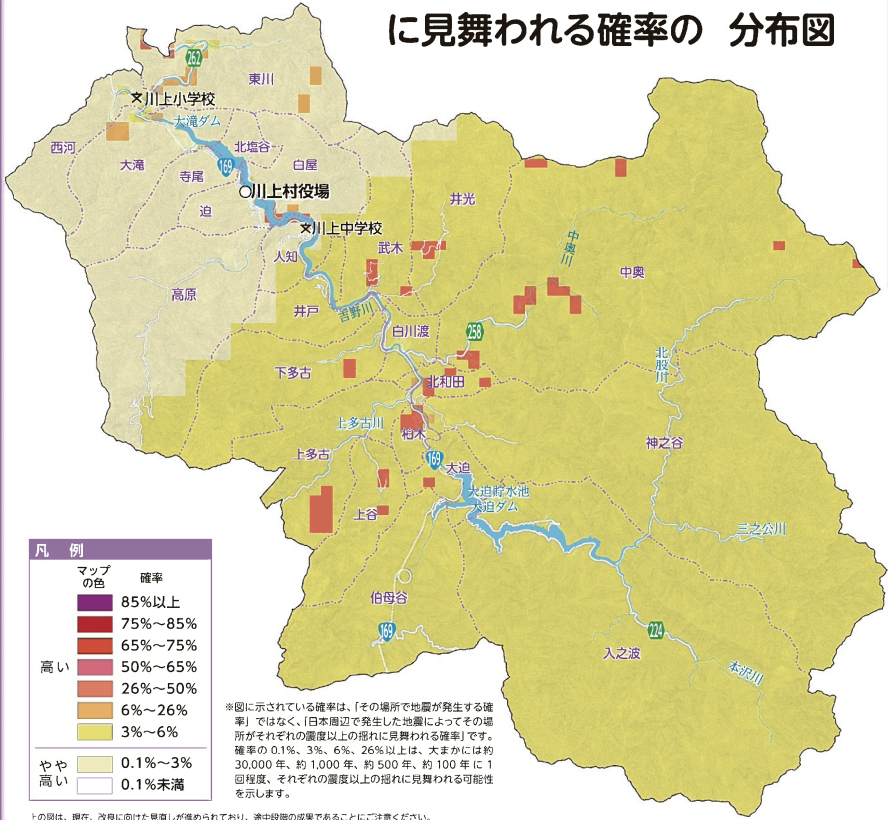
●南海トラフ地震（最大ケース）

今後 50 年以内に 39%の確率で一定の震度以上の揺れに見舞われる領域
(再現期間約 100 年)



確率論的地震動予測マップ

今後30年以内に震度6強以上の揺れに見舞われる確率の分布図



川上村で強い揺れに見舞われる可能性

この図は、「2017年から30年間に震度5弱以上の揺れに見舞われる確率」を予測した地震動予測マップです。

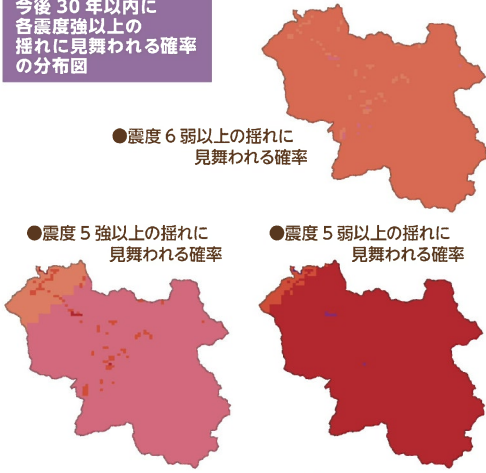
「確率が低いから安全」とは限りません

日本は世界的に見ると地震により大きな揺れに見舞われる危険性が非常に高く、過去200年間に国内で大きな被害を出した地震を調べると、平均して海溝型地震は20年に1回程度、陸域の浅い地震は10年に1回程度起こっています。このため、自分の地域で最近地震がないからといって安心はできません。また、日本国内で相対的に確率が低い地域でも、油断は禁物です。

地震動予測マップには不確実さが含まれています

地震動予測マップは最新の知見に基づいて作成されていますが、使用できるデータには限りがあるため、結果には不確実さが含まれます。例えば、地震計が設置されたのは明治以降で近代的観測データがあるのは、これまで地震が起こってきた長い歴史のうちのごくわずかの期間です。また、国内にはまだ詳細な活断層調査が行われていない地域があります。これらの理由から、その存在が知られていない地震や活断層がまだ残されている可能性があり、地震動予測マップには不確実さが含まれています。

今後30年以内に各震度強以上の揺れに見舞われる確率の分布図



上の図は、現在、改良に向けた見直しが進められており、途中段階の結果であることにご注意ください。

出典：J-SHIS 地震ハザードステーション HP

地震について

震度と揺れ等の状況

震度 0

- 人は揺れを感じない。



震度 1

- 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



震度 2

- 屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



震度 3

- 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。



震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電燈などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



震度 5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度 5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性が低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



耐震性が高い

耐震性が低い

地震時の行動(時間別)

地震がおきた時、あわててむやみに行動するとかえって危険です。緊急地震速報を活用したり、報道等で正しい情報を入手して、冷静に状況を判断して的確な行動をしましょう。

地震発生

1~2分

3分

5分

~10分

~数時間

~3日

激しい揺れは1~2分!

- 落ち着いて!身の安全を守るための行動を!
- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。あわてて外へ飛び出したりせず、冷静に行動を!

揺れがおさまったら

- 火元を確認
火災が発生してもあわてずに初期消火。
- 家族の安全を確認
家族や火元の安全確認が済んだら次の行動へ。
- 靴を履く
家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパを履く。
- 非常用持ち出し品
危険予知地域では、速やかに安全な場所に避難。



●みんなの無事を確認

- 家族に次に隣近所は?要配慮者の安全確保。隣近所で助け合う。
- 近くに火は?
近所に火の手は?消火活動はみんなに呼びかけ、協力を!
- 余震に注意!
大地震の後には余震が発生を抜かずに行動を!傾いた家などには入らない!近寄らない!



●ラジオをつけて正しい情報を!

- 国、自治体の情報を確認!デマにまどわれない!最新の正確な情報を入手。
- 電話はなるべく使わない!
電話の使用は緊急連絡を優先し、極力避ける。
安否情報は「災害伝言ダイヤル171」を利用。



●子どもを学校等へ迎えに! ●ブレーカーを切る!

- ガスの元栓を閉める! ●行き先メモを玄関に!
- ブロック塀の倒壊や自販機の転倒、看板やガラスの落下に注意!
余震などで傾いたブロック塀や自販機が倒れることもあるため、注意!



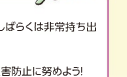
●避難

- 避難するときは、指定緊急避難場所へ避難!
- 避難時は車を密力使用しない!
- 被害が拡大長期化する場合は災害対策本部の開設する指定避難場所へ避難!
- 自宅を離れるときは、安否、行き先などのメモを玄関に用意!



●生活必需品備蓄で!

- 被災後数日は物資の援助は期待できない。しばらくは非常持ち出し品や備蓄食糧で!
- 倒れた家に入るのは危険!
倒れた家に入るのは非常に危険です。二次災害防止に努めよう!



外出時の行動

地震から身を守るには

屋 外

●運転中

運転中の急ブレーキは危険です。周囲に注意しながら、徐々にスピードを落として、緊急車両の妨げにならないよう道路の左側に停車します。できれば広場へ駐車し、揺れがおさまるまでは車外に出ず、ラジオから情報を入手します。避難の際は車のキーをつけたまま、ドアをロックせずに窓を開けます。連絡先メモを見えるところに残し、車検証や貴重品などを持って徒歩で避難します。高速道路では、非常口から徒歩で脱出します。車での避難は緊急車両の通行妨害になるのでやめましょう。



●エレベーターの中

すべての階の停止ボタンを押し、最初に止まった階で降ります。ただし、降りる前にはその階の状況を確認しましょう。



●電車・バスの中

電車やバスは、危険を回避するため、急停止することがあります。座席に座っている時は、姿勢を低くして頭部をカバンなどで保護し、立っている時は手すりや吊り革にしっかりとつかまりましょう。停車後は、乗務員の指示に従いましょう。



●山・丘陵地

登山やハイキングで山にいる時は、まず落石から身を守ります。地震で地盤がゆるみ、崩れやすくなっている可能性があるため、がけや急傾斜地などには近づかないようにしましょう。



屋 内

●職場

OA機器や戸棚から離れ、頭部を保護して丈夫な机の下にもぐるなどして揺れがおさまるまで身を守ります。窓ガラスが割れることもあるので、窓からは離れましょう。脱出する時は、エレベーターを使わず、外へ出る時は落下物に注意しましょう。



●学校・塾

慌てて外に飛び出したり、勝手に家に帰ったりせず、先生の指示に従いましょう。教室にいる時は机の下などに隠れます。体育館や廊下、運動場などでは真ん中に集まってしゃがみます。習い事や学習塾では、先生に地震時の対応を確認しておきましょう。



●デパート・スーパー

バッグや買い物かごなどで頭部を保護し、ショーケースなど倒れやすいものから離れましょう。あわてて出口に殺到せず、エレベーターホールや陳列商品の少ない場所、丈夫な柱付近に避難し、係員の指示に従います。エレベーターが動いていても、絶対に使わないようにしましょう。



●地下街

火災が発生しなければ比較的 안전한場所なので、バッグなどで頭部を保護して揺れがおさまるのを待ちます。停電になっても非常灯がつくまで動かず、脱出する時は、壁づたいに歩いて避難します。



●映画館・劇場

バッグなどで頭部を保護し、座席の間に身を隠して揺れがおさまるのを待ちます。停電しても誘導灯や非常灯がつかますので、係員の指示に従い落ち着いて避難しましょう。



わが家の防災対策

家の中の安全対策



家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる



寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない



安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

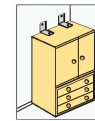


家具の転倒を防ぐ

家具の転倒、落下を防ぐポイント

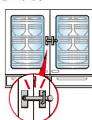
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビ台の上には水槽や金魚鉢を置かない。



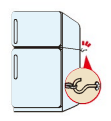
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



通電火災 通電火災とは、停電後、復旧した際の再通電時に発生が懸念される火災です。

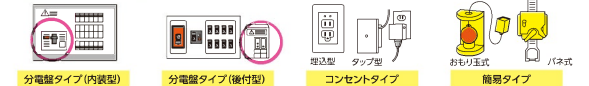
- ①地震の揺れや建物の倒壊、浸水や雨漏りによる電化製品の基盤等の損傷により、再通電時にショートが生じ、発火する。
- ②転倒したヒーターや照明器具(白熱灯など)が可燃物に接触した状態で再通電し、着火する。
- ③落下したカーテンや洗濯ものといった可燃物がヒーターに接触した状態で再通電し、着火する。
- ④再通電時に発生した電氣的火花により、漏れ出たガスに引火・爆発する。コンセントに水分が付着し、再通電時にトラッキングが生じ発火する。



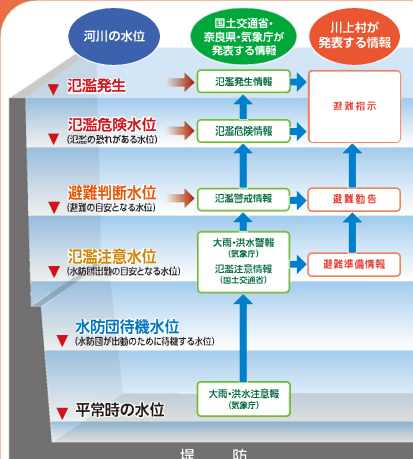
電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感じたときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

主な感震ブレーカーの種類



● 水位情報と用語の説明



河川名	水防団待機水位	避難判断水位	氾濫危険水位	氾濫発生水位
新井川	4.30	7.40	10.70	11.40

● 洪水浸水想定区域図とは

洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保するため、洪水により相当な被害が生ずる恐れがあるものとして指定した「水位周知河川」等において、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域と水深を示した図です。

● 浸水想定条件：
紀の川橋本地点上流域の2日間の総雨量678mm

上記の大雨を想定した結果にもとづいて、想定を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

河岸侵食 (かがしんしよく)・・・
激しい川の流れにより堤防や家屋の基礎を支える地盤が削られること



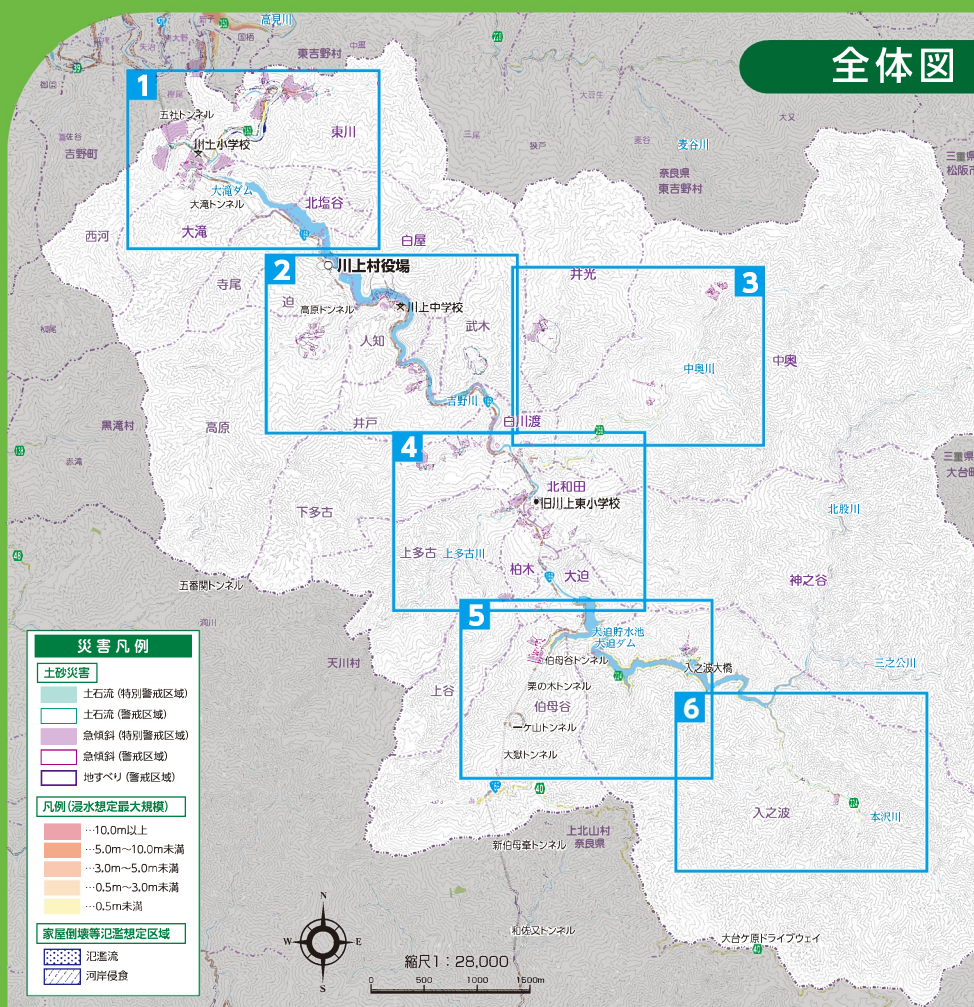
「家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)」とは、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域のうち、河岸の侵食を予測したものを表示した図面です。

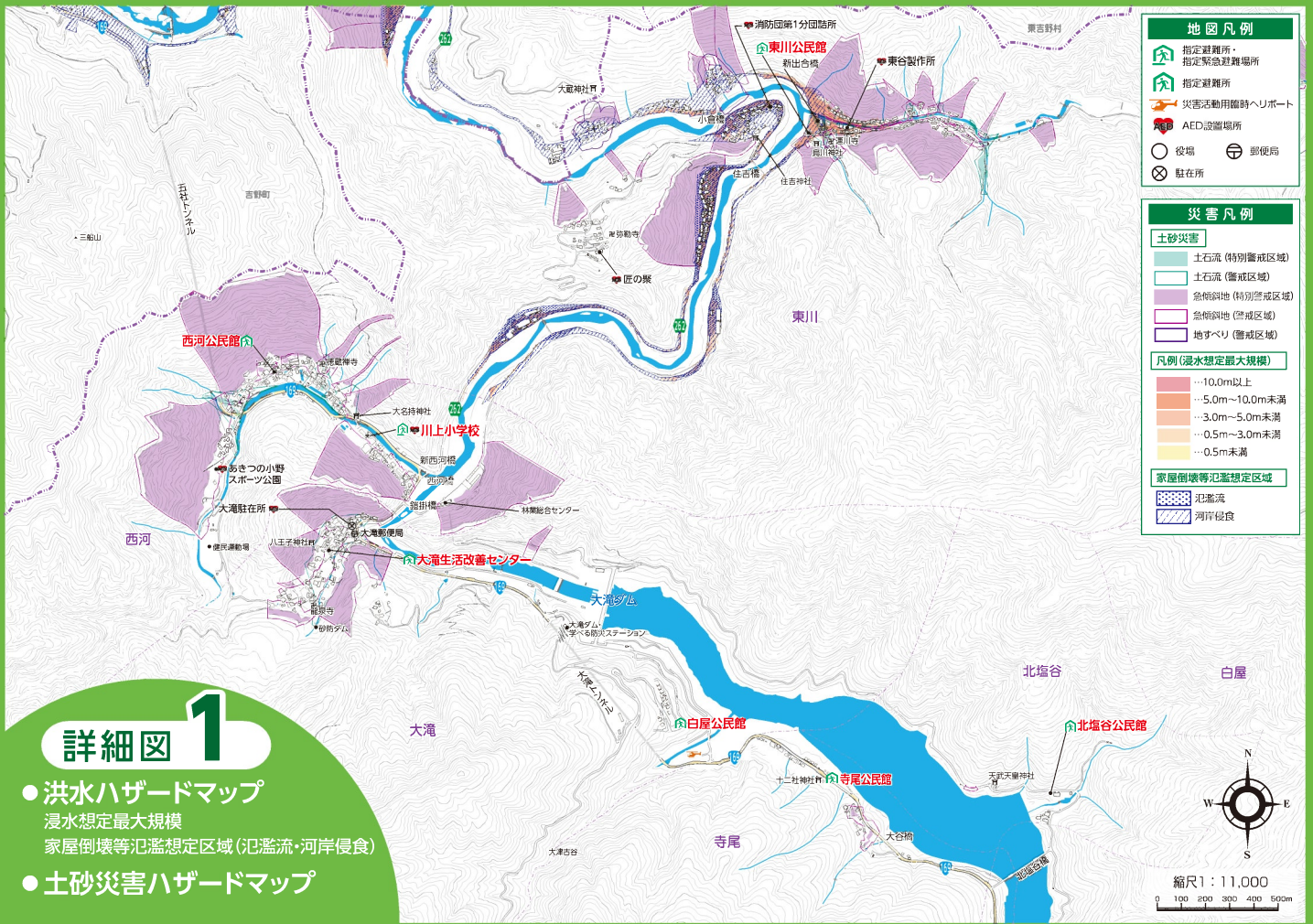
氾濫流 (はんらんりゅう)・・・
堤防の決壊に伴う激しい流れのこと

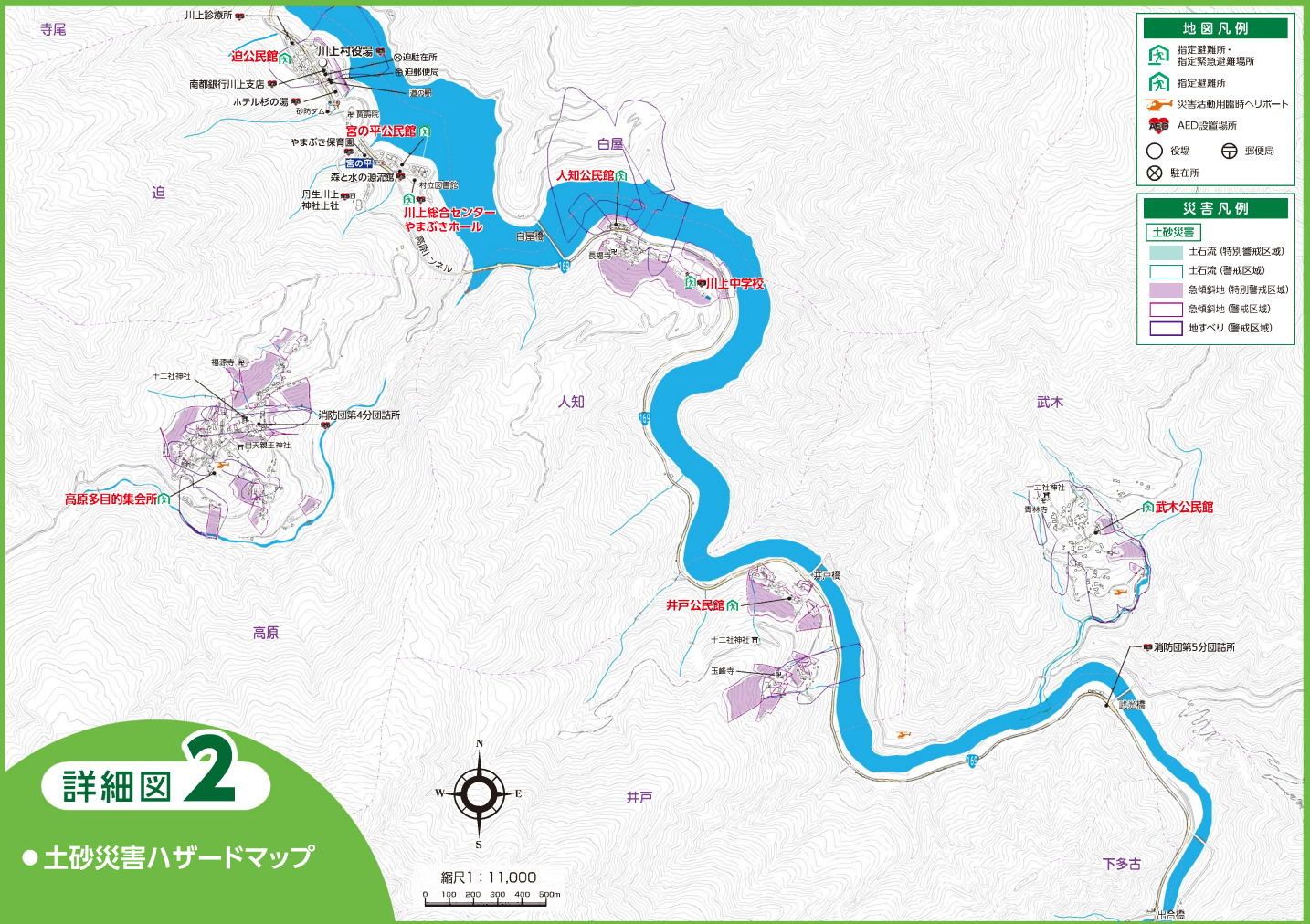


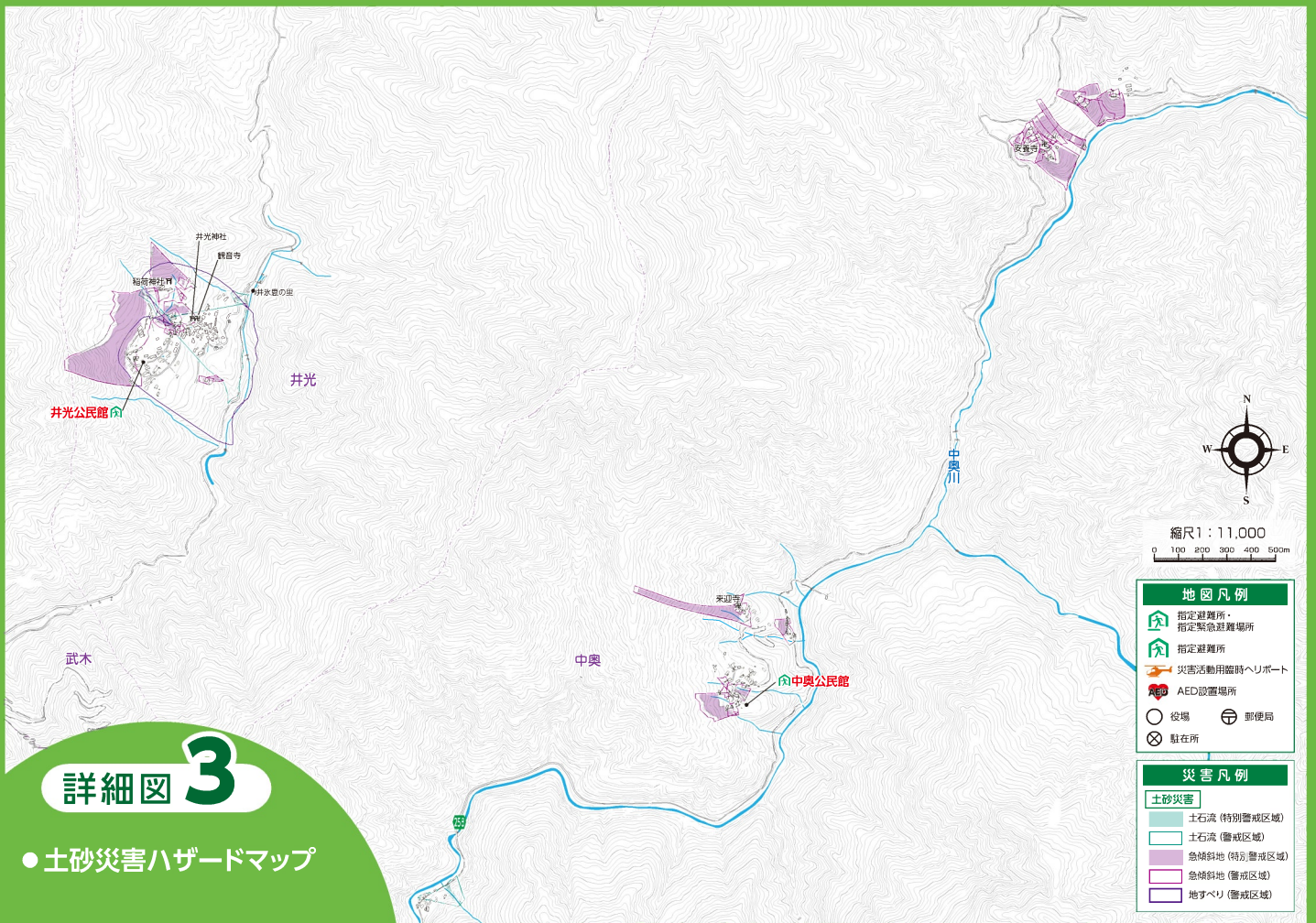
「家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)」とは、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域のうち、氾濫流による家屋倒壊・流出等の危険性を表示した図面です。

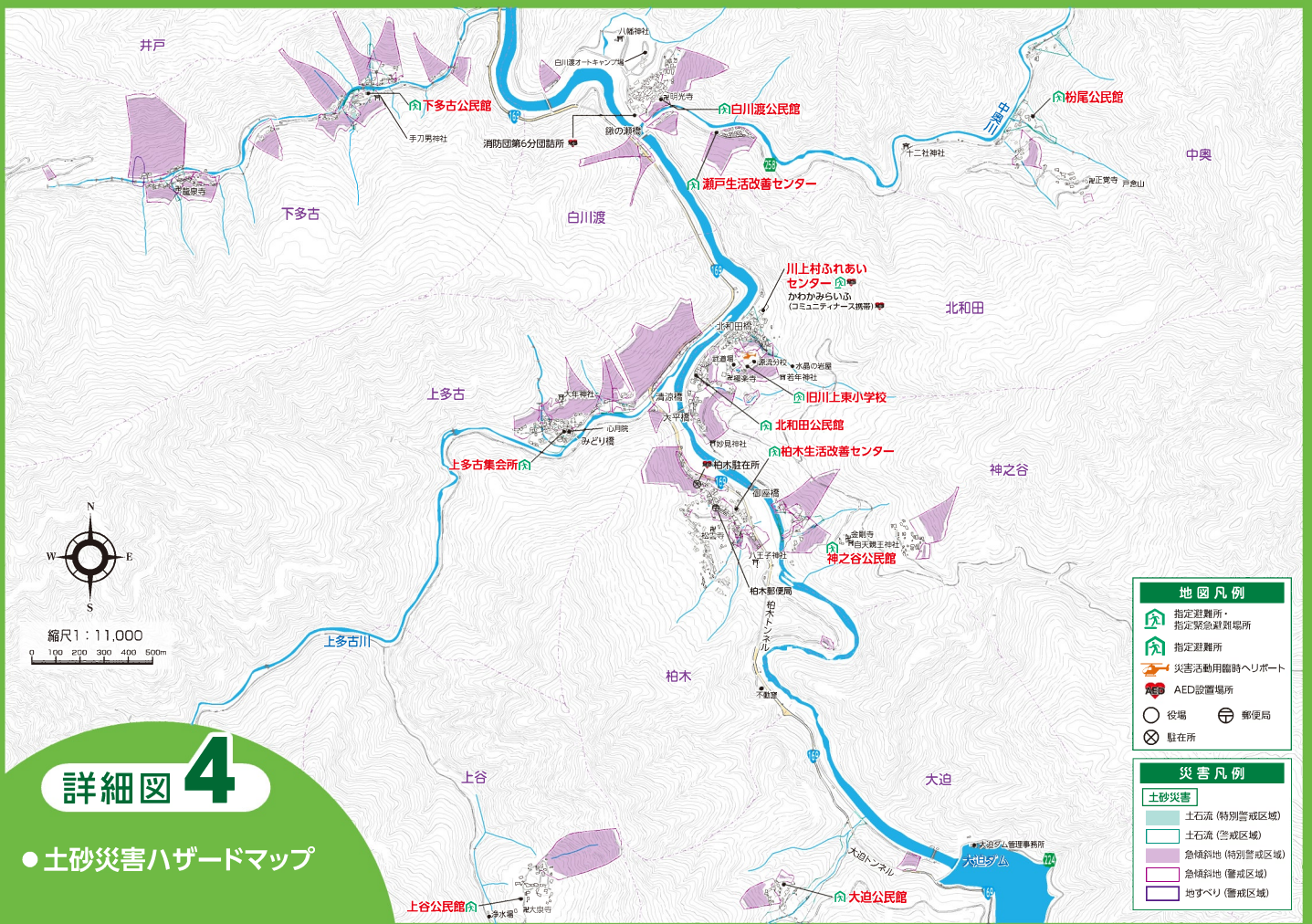
全体図





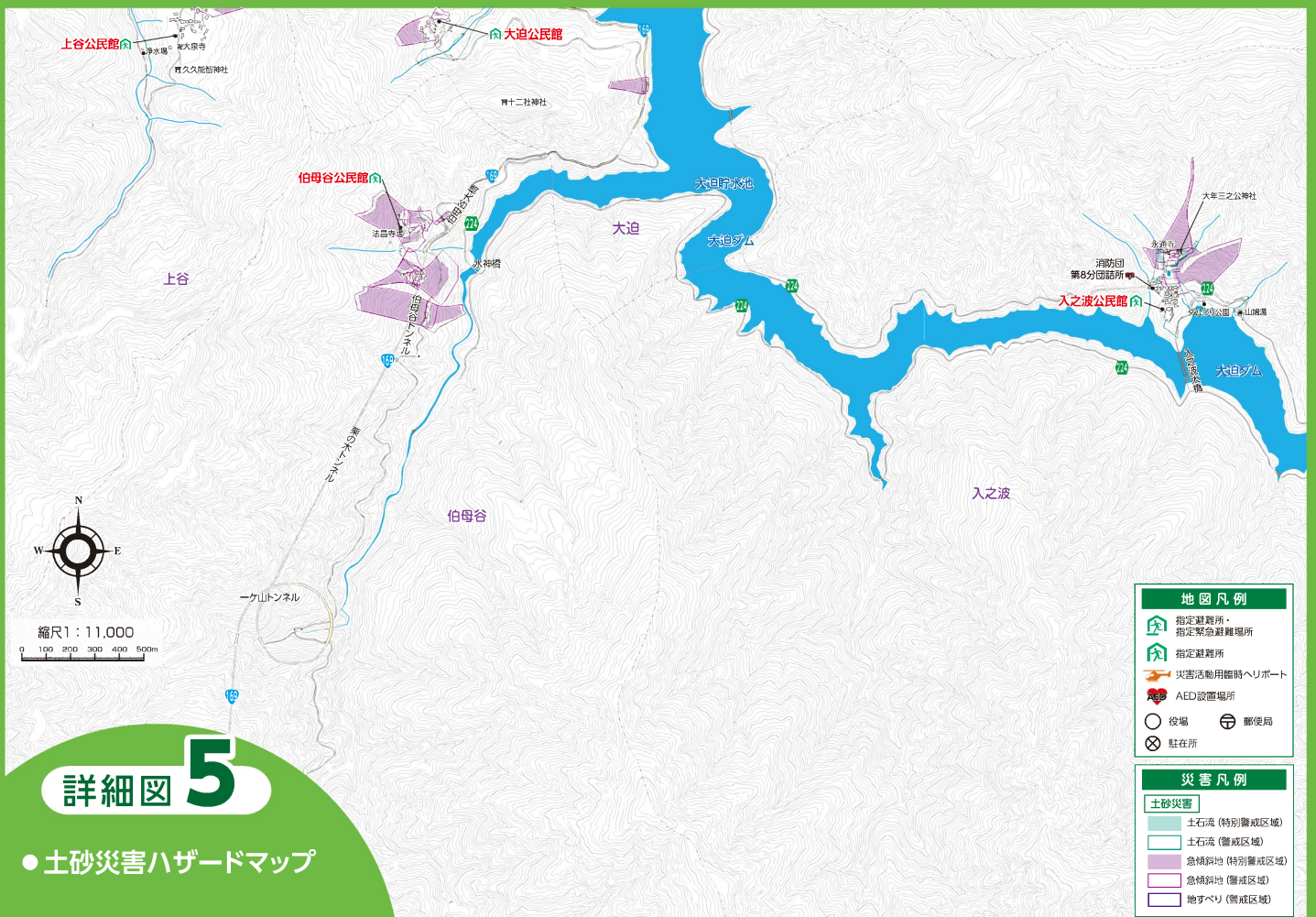






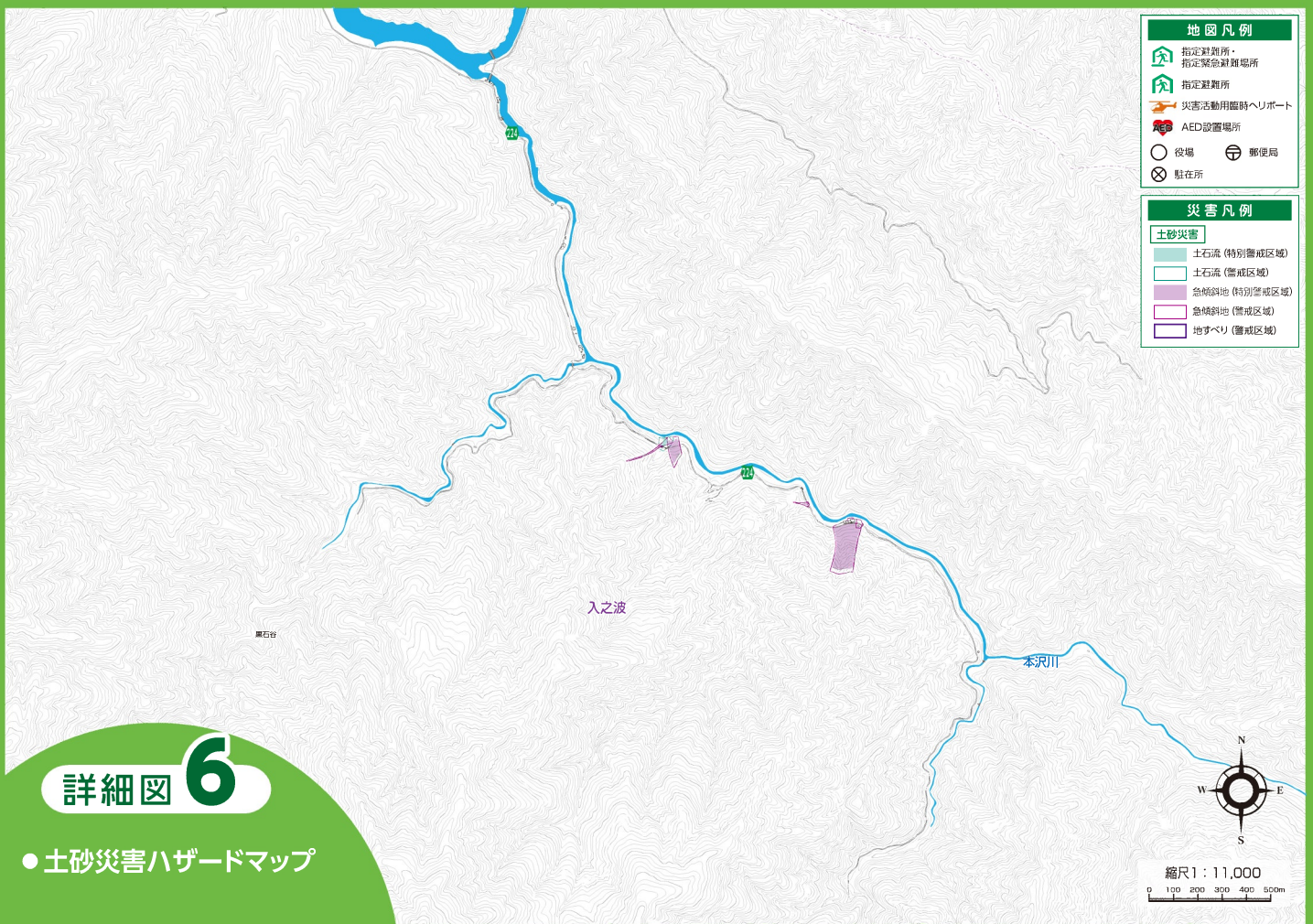
詳細図 4

●土砂災害ハザードマップ



詳細図5

●土砂災害ハザードマップ



詳細図 6

●土砂災害ハザードマップ

